



学習院大学

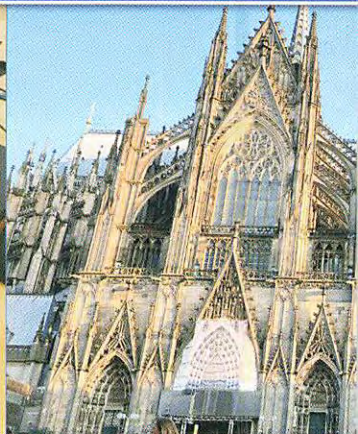
文学部 ドイツ語圏文化学科

大学院人文科学研究科 ドイツ語ドイツ文学専攻

学習院大学文学部

ドイツ語圏文化学科 何を学ぶ?
どう学ぶ?

Deutsches Seminar

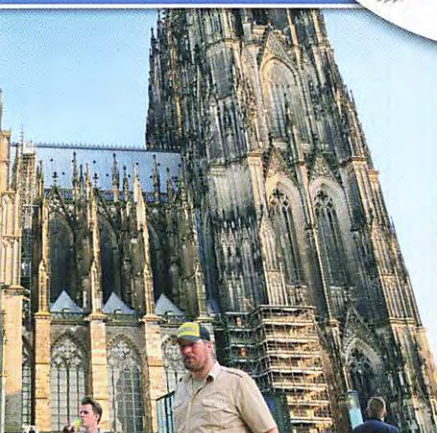


少人数制ならではの
手厚いサポート





徹底した語学教育



興味にあわせて選ぶ 三つのコース制

言語・情報
コース

文学・文化
コース

現代地域
事情コース

1年生

学習院のドイツ語教育

せっかくドイツ語を学ぶのなら、話せるようになってドイツ語圏の人々と交流してみたい!と思うのは自然なことではないでしょうか。本学ではドイツ語母語話者の教員を1-2年生のクラスに多く配置し、日本語母語話者の教員が文法演習やサポートに入ること、コミュニケーション中心の徹底した語学教育を実現しています。入学までまったくドイツ語を学んだことのない学生でも自然にドイツ語を身に付けられるよう、カリキュラムを組んでいます。

歓迎会

入学後の学生間の交流を促進するイベントとして、4月末に歓迎会を行っています。授業内でも学生同士のペアやグループで練習を行ったり、意見をまとめるなど、コミュニケーションをとる機会を多く設けていますが、授業以外でもクラスや学年の枠組みをこえて、交流・情報交換ができる場がたくさんあります。



めじろだより

在学生・卒業生・教員等で構成する「学習院大学ドイツ文学会」が、年に1回、『めじろだより』を発行しています。学部生が見つけたドイツ語圏の「面白い!」を伝えるべく、エッセイ、映画や本、催しものの紹介など盛りだくさんの内容で、1年生から4年生までの編集委員が協力しあって制作しています。



ピックアップ授業 ①

「アカデミック・スキルズ入門」

本授業では、文献調査や議論の進め方、プレゼンテーションやレポートの書き方などを実践的に学び、練習していきます。



ドイツ語圏のエキスパートへ

本学科で学ぶことができるのは、もちろん語学ではありません。1年次に「アカデミック・スキルズ入門」や「現代地域事情入門ゼミ」などの授業で学び鍛えた文献調査やレポート作成の基礎的な技術を使って、2年次には文学・文化学と言語学の分野で与えられたテーマについて、関心のある領域を自分で探究する実践的な経験を積みはじめます。執筆・提出したレポートは、教員がコメントをつけて返却するようにしています。

夏期語学研修

毎年、夏休み4週間、ドイツ語圏現地で開催されているドイツ語講習への参加を強く推奨しています。日本人受け入れの経験も豊かな現地スタッフによる授業やサポートにより、初めての海外滞在を不安なく過ごすことのできる機会を提供しています。

特に本学科では、2年次にライプツィヒ大学付属の語学コースでの研修を推奨しています。音楽と歴史の街ライプツィヒは、自由時間にまわる観光名所もいたるところにあり、見聞を広げるのに最適です。

ピックアップ授業 ②

「コミュニケーション 演習中級」

ドイツ語がしゃべれるようになりますか、と聞かれることがあります。答えはイエスです。1年次からすべてドイツ語で進む授業に慣れていき、2年次の「コミュ演」では、ネイティブ教員によるすべてドイツ語の授業が週3回行われます。



資格取得サポート

本学科では、語学力向上のためのサポート体制として、留学や資格取得に向けた国際レベルの各種ドイツ語能力認定試験の受験を奨励し、一定以上の試験については単位認定も行っています。

日本のドイツ語技能検定試験(独検)のほか、ゲーテ・インスティトゥートの試験にも、毎年多くの学生が受験に挑戦し、合格しています。

また教職課程にも対応しており、規定の授業を履修すれば、中学と高校のドイツ語の教員免許を取得することができます。



3年生

探究型の三つのコース制

1・2年では各コースの入門ゼミナールと講義で基礎的知識を習得し、3年からは一つのコースを選択します。専門演習は所属コース以外のものも履修できます。

言語・情報コース

ことばとしてのドイツ語の特徴、言語と社会の関係、コミュニケーションのあり方を学びます。

文学・文化コース

文学研究に加えて、演劇、映画、芸術(絵画・音楽)なども文化学の観点から考察します。

現代地域事情コース

地域事情(環境、教育、風俗習慣など)を体系的に学び、新しいメディア社会への理解も深めます。

三つの中からコースを選び、興味にあわせてゼミナールに所属します。それぞれのテーマについてさらに知識を深めながら、その研究手法を学んでいき、指導教員からアドバイスを受けて発表やレポート作成を繰り返します。

通訳翻訳者養成演習

「特別プログラム:通訳・翻訳者養成演習」には、基礎と実践のクラスがあります。基礎のクラスでは、ドイツ語能力をさらにブラッシュアップすべく、ネイティブによる授業を週に2コマ受けます。実践クラスのひとつでは、日本人教員の元で、ドイツ語と日本語の行き来をスムーズにできるような練習をします。ドイツ語ならびに日本語の力も伸ばしながら、現代ドイツや日本に関する背景知識を得ることが目標です。

このプログラムの履修には、学年の制限はありません。大学入学まえにすでにドイツ語学習経験のある学生は、レベルチェックを受けた上で、それぞれのレベルにあった授業を受講することができます。

ピックアップ授業 ③

「現代地域事情コースゼミナール」

いよいよゼミナールがスタート。主役は学生です。それまでに学んできた知識や方法論を駆使して発表し、その内容について皆で議論しながら、現代社会への理解を深めます。



4年生

卒業論文・卒業研究

卒業年次には、4年間で学んだことの集大成として卒業論文または卒業研究を執筆します。卒業論文では、指導教員からアドバイスを受けながら、自分で選んだテーマについて論文を執筆します。

卒業研究は、所属するコースゼミナールのテーマに関連する研究を行います。卒業論文か卒業研究のどちらを執筆



するかは、自分の希望によりますが、最終的には指導教員との面談を経て決定します。

論文や研究のテーマは一人ひとり違います。そのため

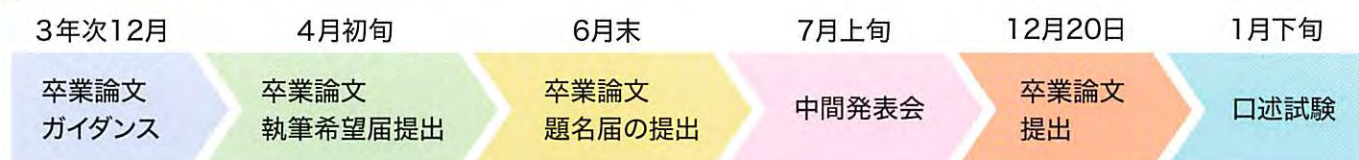
卒業論文の執筆指導は、指導教授がマンツーマンで丁寧に行います。

論文の制作過程には、他の教員や学



部生・院生から中間発表会などで意見をもらい、さらにブラッシュアップする機会も設けられています。卒業論文にはドイツ語のレジュメをつけ、提出後の口述試験ではネイティブ教員による質問にも答えます。卒業論文は、まさに4年間の集大成です。提出できた瞬間は感慨もひとしおです。

卒業論文の執筆スケジュール



過去の卒業論文タイトル

- ウィーン・ミュージカル『エリーザベト』における死の表象
- 東ドイツの描写における真実性と虚構性 — 『Am kürzeren Ende der Sonnenallee(太陽通り)』を例として
- (西)ドイツ映画におけるアンダーグラウンドとはなにか? — ユルグ・ブットゲライト作品の分析
- ドイツ語SNSから読み解くウクライナ戦争
- 日本におけるナチス・ドイツ史の扱われ方 — 中学校教科書分析を中心に
- 日本におけるクラシック音楽の受容
- ドイツと日本における笑い:スタンダップコメディと漫才の比較

留学・インターンシップ

ドイツ語圏への留学制度・サポート

留学はドイツ語の上達だけでなく、視野を広げる貴重な機会です。本学科では夏休みを利用した短期留学と、1年間留学する長期留学の機会を提供しています。

短期留学では、夏休み4週間、ドイツ語圏現地で開催されているドイツ語講習への参加を強く推奨しています。日本人受け入れの経験も豊かな現地スタッフによる授業やサポートにより、初めての海外滞在を不安なく過ごすことができます。ドイツ語圏の大学付属の語学講習では、初級クラスから現地の大学での研究に必要なドイツ語を学ぶ上級クラスまで、多彩な講座が揃っています。

上級生のなかには、協定留学制度や協定外のドイツ語圏の大学や語学学校を利用して、長期留学をする学生が毎年たくさんいます。交換留学協定先への留学はもちろんのこと、学生の履修計画やキャリアプランにあわせて、さまざまな選択肢を提案しています。こうした留学を終えた学生が、その体験を後輩たちに伝える報告体験会など、サポート体制も充実しています。



● ドイツ夏期語学研修(夏休み4週間)

ライプツィヒ大学(ドイツ)

● 交換留学協定校(1年間)

マンハイム大学(ドイツ)

バイロイト大学(ドイツ)

ザルツブルク大学(オーストリア)

● 応募できる学内の奨学金

学習院大学海外短期研修奨学金(短期:7万円まで)

学習院大学海外留学奨学金(長期:40万円まで)



留学・海外インターンシップ単位認定制度

本学科ではさらに、ドイツ語圏での職業体験(インターンシップ)も奨励しています。時期は、夏休み、あるいは、春休みが中心です。行き先はさまざまで、職種は本人のドイツ語のレベルや希望によって複数の可能性があります。

単位認定は、ZD(Zertifikat Deutsch)A2以上のドイツ語力を持つ学生が対象となります。

卒業後の進路

留学体験談

私は2022年9月～2023年6月まで、オーストリアのザルツブルク大学へ交換留学をしていました。留学中はさまざまな国の学生と共にさまざまな経験をしました。中でも、本場のオペラ(オペレッタ)を鑑賞したことはとても貴重な経験でした。さらにはウィーン発、今や世界的にも有名なミュージカルである『エリーザベト』を現地で鑑賞するという夢も叶ったのです。本場で「本物の」芸術に触れたこと、そしてさまざまな人との出会いを通じ、私は新たな夢ができました。そして現在はその夢に向かい、日々邁進中です。

正直、始めのうちは異国の地で生活するという初めての経験を不安に思う気持ちも大きかったです。しかし留学を終えた今は、留学へ行ってよかったと心の底から思います！(2025年3月卒業 早川実紗)



留学・就活報告会／卒業生との交流会



同じ目標を持った同級生や、すでに経験のある先輩からの最新情報ほど心強いものではありません。履修相談、研究、留学、就職など、多岐にわたる学生同士の交流・情報交換の場を大切に、数々のイベントを行っています。

- 学部生による留学体験報告会
- 4年生による就職活動報告会
- ドイツ語圏の企業に関する講演会
- めじろオクトーバーフェスト(卒業生との交流会) など

卒業後の進路

本学科の卒業生は、4年間で養われた語学力、自己表現力、そしてドイツ語圏に関する知識を生かし、全国各地の大学や中学校・高等学校で教育・研究に携わる教員として、あるいは銀行、メーカー、航空会社等の一般企業、マスコミ関係、官公庁、大使館やドイツ系企業を職場として活躍しています。卒業後、大学院へ進学して研究者を目指す学生も少なくありません。

ドイツ語圏文化学科の授業

ドイツ ワイン

から
ヨーロッパの
歴史・文化を学ぶ



家族の 日独比較

時代と地域でこんなに違う?!と
びっくりする人がとても多い授業です。
労働形態や産業の発展、ジェンダーや教
育など多様な視点から考えてみましょう。



コーパスを 使ってドイツ語の 真の姿に迫る



方言や 若者言葉など 言語の 社会変種



ドイツの地域社会の 実情を調べ、 サッカー



の強さの秘密を探る

政治・歴史・文化・
地域経済や教育・福祉、
コミュニティの形成までも。。。
探ると深いフェラインの
成り立ち。



グリムや 『モモ』など メルヘンの真髄へ



若いて
すばらしい??

モダンガール のイメージから、 ルッキズムや エイジズム

についても考えます



中世の 騎士道



ニーベルンゲンを
極める



ドイツ語文学って誰のもの? 非母語者 による ドイツ語圏 文学



ドイツだけじゃない、 オーストリア・ スイス研究



ウィーンミュージカルの 世界への誘い 『エリーザベト』



冷戦時代の最前線 東ドイツ

繰り返しては いけない ナチス の歴史に迫る

モーツァルト だけじゃない、 クラシック音楽の 謎を解く



ドイツの歴史から学ぶ 移民との 共生

なんと、ドイツで「移民の背景」がある
住民の割合は2023年時点で約30%。
私たちはどうする?
何ができる?

教員からのメッセージ

博論ではトーマス・マンの女性像を研究しましたが、今はナチス時代を描く現代ドイツ文学を追っています。悲しい過去を持つからこそさまざまなことを考えさせてくれるドイツの文学を、一緒に読みませんか？



伊藤 白 教授
研究分野：
現代ドイツ文学

自分とは全然ちがう国、人、言葉のなかに飛び込んでいくことは、勇気がいりますが、新鮮な驚きと発見の毎日です。フィクションも家にながら見知らぬ世界を旅行できるのでおすすめです。



犬飼 彩乃 准教授
研究分野：
フィクション論、
翻訳研究

一つの言葉に何重もの意味を含めるI.アイヒンガーやラムシュタインが大好きです。授業では、文学や音楽、絵画や演劇に書き込まれている、来るべき社会の可能性を皆で探っています。



小林 和貴子 教授
研究分野：
現代ドイツ文学・文化

ドイツ語の推理小説を趣味と実益を兼ねていつも読んでいます。ドイツ語の魅力的な謎を追及するのが私の仕事ですが、小説の中の犯人捜しと同様に、研究に役立つ例文も集められるからです。



清野 智昭 教授
研究分野：
ドイツ語学、
応用言語学

文法を丸暗記するのではなく、なぜそのような文法になっているのかを一緒に考えましょう。

2024年に『ドイツ語文法大全』（共著）が出ました。



田中 雅敏 教授
研究分野：
ドイツ文法理論、
歴史言語学

研究内容やゼミについての学生へのメッセージは「文学部がわかる小事典」をご覧ください

ジェンダーと表現の関係性について研究しています。とくにワイマール共和国時代の女性作家の作品と彼女たちのその後の活動に注目しています。



田丸 理砂 教授
研究分野：
近現代ドイツ文学、
フェミニズム文学批評

ドイツ語は難しいと思う人がいますが、「アルバイト」や「メルヘン」などドイツ語由来の言葉は身近にあります。こうした単語を意識すれば、上手に学べるかもしれません。楽しくドイツ語を勉強してください！



トーマス・ペカー 教授
研究分野：
異文化間
ゲルマニスティック

教員の研究活動

近年の外部資金によるプロジェクト

- 現代ドイツ文学におけるホロコースト表象と公共圏の相互作用
科研費：基盤研究(C)、2024年度～2026年度、
研究代表者：伊藤白
- 多様化する「わたし」による虚構の創造
——クレメンス・J・ゼッツを中心に
科研費：基盤研究(C)、2024～2027年度、
研究代表者：犬飼彩乃
- ユダヤ人亡命における東アジア認識とその文学的反映
——「移動する文学」の視点から
科研費：基盤研究(C)、2024～2027年度、
研究代表者：Thomas Pekar
- 文芸公共圏を形成する社会システムとしての図書館
科研費：基盤研究(C)、2021～2023年度、
研究代表者：伊藤白
- ナチスドイツから東アジアへのユダヤ人の『トランジット移住』研究
科研費：基盤研究(C)、2021～2023年度、
研究代表者：Thomas Pekar

大学院人文科学研究科 ドイツ語ドイツ文学専攻

何を学ぶのか

ドイツ語ドイツ文学専攻ではドイツ文学・文化およびドイツ言語学の専門知識を身につけることはもちろん、ベースとなるドイツ語運用能力の向上も重視します。また、ティーチング・アシスタントとして教育経験を積むこともできます。

清野智昭 教授

専門

ドイツ語の構文や表現の基になる事態の捉え方を研究しています。特に興味があるのが、有生性が構文に与える特性、つまり、生き物（典型的には人間）と事物の表され方です。

授業

動詞が中心となり文を作るという考えをするヴァレンツ理論とその現代的意義、コーパスを使った構文の分析などを扱っています。

田中雅敏 教授

専門

ドイツ語の文法理論、とりわけ枠構造に関する研究、語順研究などを行っています。具体的には、定動詞位置、主文・副文構造、話題化などです。近年は、名刺の複数形形態、冠詞や形容詞のシグナル語尾、キーツドイツ語、若者言葉などのドイツ語の変種（社会言語学）にも取り組んでいます。

授業

統語論、意味論、語用論などを扱います。基礎的な文献をきちんと読み、その上で最新の研究動向もフォローします。



Thomas Pekar 教授

専門

ムージル、ホーフマンスタール、カフカ、ユンガーなどの作家研究とならび、文化比較の観点からナチス時代に亡命した作家たち、特にユダヤ人作家を中心に研究しています。

授業

ドイツ語圏の主要な作家の作品について分析と議論を行っています。最近では、おもに亡命と異文化間の接触をテーマとして授業をしました。前者に関しては特にナチス時代に東アジアへ亡命した作家の作品を、後者に関しては日独関係を扱っています。

田丸理砂 教授 (身体表象文化学専攻と兼任)

専門

ワイマール共和国時代の「新しい女」のイメージと同時代に活躍していた女性作家、女性アーティストの作品を研究しています。また最近は彼女たちの亡命期や第二次世界大戦後の活動へと関心を広げています。

授業

最近の授業では移動や旅行に注目し、戦間期にヨーロッパ人によって書かれたアメリカ社会をテーマとしたルポルタージュや、新しいテクノロジー(自動車や写真)と文学表現の関係性などについて論じたテキストを取り上げています。

伊藤 白 教授

専門

他者表象の社会的背景やそこに構築された権力構造を分析するとともに、「他者」の表象によって「自己」と「他者」との間の壁を超える可能性を文学作品の中に見出すことを研究のテーマとしています。

授業

「イメージ」は構築されたものであるという意識のもと、近現代の文学作品や思想・美術・音楽などの様々な分野のテキストを精読し、その中に描かれた社会的・民族的・政治的・ジェンダー的・宗教的な「他者」及び「自己」のイメージを学生と一緒に読み解いていく授業を行っています。

小林和貴子 教授

専門

主な研究領域は20世紀以降のドイツ語圏文学・文化です。社会の周縁に追いやられた人々による作品や、そうした人々を題材にした作品を手掛かりに、迫害ないし差別のメカニズムやそれを乗り越える視点を探っています。

授業

19世紀以降のドイツ語圏文学を、主に言語と現実の関連を意識しながら精読しています。ある作品がある「現実」を生み出すときに、その「現実」は私たちの生きている現実はどう関わっているのでしょうか。こうした視点を手掛かりに、文学による社会変革の可能性を考えていきます。

犬飼彩乃 准教授

専門

今世紀に入ってから文学を例として、虚構と事実の境界に注目した研究をしています。文学の領域では古くから扱われてきた、「フィクション」「フェイク」「リアル」とは何かを考えます。

授業

何を虚構・事実と捉えるかは、各人の認知の過程に依存します。読者である私たちとは異なる環境に置かれた人々のテキストを扱うことで、当たり前のように感じている自らの世界認識に批判的視点を持つことを狙いとしています。

文学・文化学

テキスト

メディア

理論

実践

大学院生の日

大学院生の日々



瀬戸 太一郎
(博士前期課程)

学部生と比べて、大学院生は履修する講義が格段に少なくなる分、1つ1つの講義の中身が濃くなります。講義の空き時間などを利用して予習復習を行ったり、自身の研究テーマに関わる文献や論文を読むことが格段に増えるため、自身の興味に合った研究テーマと深く向き

合うことが出来るのが大学院の良さの一つと言えます。

ドイツ語ドイツ文学専攻の院生が集まる院生室には、充実した文献、設備が取り揃えられています。研究で行き詰まった時は院生室で先輩方に相談し、時には何時間も議論する、といったことも毎日のように行われています。自身の研究テーマと向き合いながら、充実した毎日を過ごすことが出来るのがドイツ語ドイツ文学専攻の特徴です。

	月	火	水	木	金
1	ドイツ文学演習(人工言語を考える)				
2	ドイツ語学演習(構文文法)				
3	英米語学特殊研究(英語の文法化の理論的及び実証的考察)	ドイツ語学特殊研究(Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik)			TA(言語・情報入門ゼミナールA)
4				ドイツ語学特殊研究(中高ドイツ語学・文学入門)	
5		ドイツ語学演習(統語論と意味論のインターフェイス)			



伊藤 港
(博士後期課程)

学習院大学で開講されている授業では、他専攻の大学院生と知り合う機会があります。たとえば、英語英米文学専攻の言語学の授業に出席すれば、英語を主に研究している方々と交流することができます。また、「F-Campus」という制度を利用すれば、他大学院の学生とも授業を

通じて相互の交流が可能です。研究を進めるうえで、ドイツ語ドイツ文学専攻の関係者だけでなく、他専攻の学生からも意見をもらえることは非常に有意義です。大学院には、そのような恩恵を受けられる環境が整っています。

また、院生室には、多くの辞書や参考書が備えられており、自分の研究に集中して、根気強く取り組むことができると思います。

	月	火	水	木	金
1	ドイツ文学演習(人工言語を考える)				
2	ドイツ語学演習(構文文法)	TA「心理学研究法Ⅱ」			
3					英米語学演習
4			心理学演習(大学院生のための教養としての認知科学)		
5	他大学ゼミ		ドイツ語学演習(統語論と意味論のインターフェイス)		

もっと広く、どこまでも深く ようこそ研究の世界へ

ドイツ語ドイツ文学専攻フロア図



助教1名と副手
2名がいます。
履修や留学など
さまざまな相談
に乗っています。



書庫の資料を閲覧する場でもあり、
おもに学部生が集まって勉強したり、
食事したり、情報交換を行う場所です。
和書やDVD、ビデオ等の資料が
配架されており、AV機器もあります。



おもに洋書が収められていま
す。この他、和書は閲覧室と共同
研究室にあります。古い資料は
地下書庫に収められています。
学科図書室では洋は約50,000
冊、和書は約4,000冊を所蔵し
ており、手軽に豊富な資料に触
れることができます。



通称「院生室」。パソコンや
プリンター、コピー機が備え
てあります。大学院生、研究
生等が集まる場所です。個
人の研究以外にも大学院
の授業や研究会がここで
行われます。

大学院の授業

大学院の授業は、ほとんどすべてが少人数のゼミ形式で行われるため、学びの密度が格段に高まります。質・量・頻度のいずれの点においても要求水準が上昇し、各回の発表において何らかの研究の進展が求められます。学部課程に比べ、大学院ではアウトプットの比重がさらに大きくなります。これは、学位論文(修士論文・博士論文)の執筆や、学会での研究発表、学会誌への論文投稿が、大学

院生にとって最も重要な研究活動となるためです。

授業内容に関する裁量が大きくなることも、大学院の授業における魅力の一つです。ゼミの教員や他の参加者と相談しながら、テーマを設定することができます。少人数の環境で積極的に自らの意見を述べ、議論に参加したいと考える人にとって、大学院はまさに理想的な学びの場と言えるでしょう。(出島恒太郎 博士後期課程)

研究支援・進路

大学院生のための研究支援

奨学金

大学院生の研究活動を支援するために、
数々の奨学金や研究支援の枠組みが用意されています。

● **人文科学研究科特別研究費**（学会発表旅費・滞在費補助、図書の購入などに使用可能）

■ 博士前期課程：年間5万円

■ 博士後期課程：年間20万円

申請者全員に支給

● **学習院大学大学院博士後期課程給付奨学金**

年間授業料の3分の1相当額の給付（約16万円）

申請者全員に支給

★他にも、下記の通り様々な貸与型・給付型奨学金制度があります。

- 学習院大学教育ローン金利助成奨学金（給付）
- 学習院大学海外留学奨学金（給付）
- 学習院大学学業優秀者給付奨学金（給付）
- 学習院大学奨学金（貸与）
- 安倍能成記念教育基金奨学金（給付）
- 学習院大学海外短期語学研修奨学金（給付）
- 日本学生支援機構奨学金（貸与）

また、日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の申請やDAAD（ドイツ学術交流会）奨学金によるドイツ留学も全面的にバックアップします。博士後期課程から、日本学術振興会特別研究員として採用される院生、DAAD奨学金の合格者も多く輩出しています。秋期入学試験で進学が決まれば、入学年度の夏休みにDAAD奨学生として短期留学することも可能です。

ドイツ語運用能力の育成を重視

当専攻では、より高度なドイツ語の運用能力を在籍生が身につけられるように、DAAD（ドイツ学術交流会）の給付奨学金を利用した短期・長期語学留学をバックアップしています。また、コミュニケーション能力の育成に特化したネイティブの講師による授業を開講しています。



研究環境支援

2023年4月にオープンしたばかりの東1号館には、コーヒーショップや大学図書館の上、13-14階が人文科学研究科の大学院生用研究スペースになっています。

このフロアには、自習用デスク、当日利用のロッカーのほか、オンライン会議にも利用可能な個別ブース、研究会に利用できる大小の会議室、休憩に利用できる飲食スペースなどが完備されており、平日朝7時から23時まで利用できます。



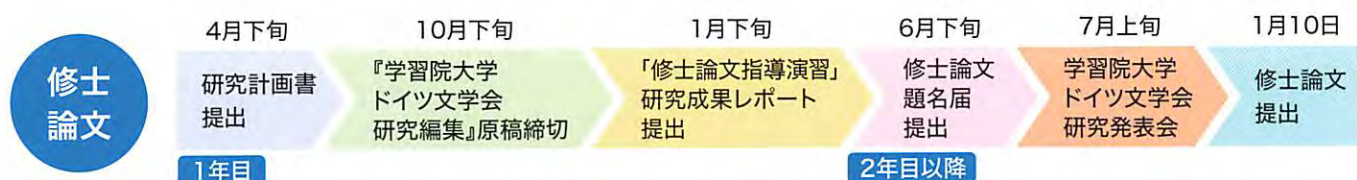
大学院修了後の進路

初めから研究者や大学教員になりたいと思って、大学院への進学を考える人ばかりではありません。本専攻では修士号取得後に社会に出て活躍している人も多くいます。ドイツ語圏の企業、大使館や外務省、通訳・翻訳者、出版社や新聞社といったマスコミ関連、旅行会社などに就職しています。博士課程に進学した人は、その後は大学や高校の教員として活躍しています。専門の勉強をしながら、就職先の調査やそのためにすべきことを考えることもできます。知的好奇心を満たすべく、大学院への進学を一度考えてみませんか。



学位取得

修士・博士論文完成までのプロセス



■研究計画書

本研究科に入学した学生は、4月末日までに研究目標をまとめた「研究計画書」を提出します。修士論文執筆には長期的な計画が必要となりますので、この時点で大まかな目標について指導教授と相談して作成します。

■論文投稿の支援

本専攻で発行する『学習院大学ドイツ文学会 研究論集』や人文科学研究科の発行する『学習院大学人文科学論集』に研究の成果を発表できます。卒業論文をまとめたものや、修論の途中経過などをアウトプットすることで、研究の方向性をより明確にすることができます。

■修士論文指導演習

博士前期課程を通じて指導教授と綿密に連絡を取ることで、修論完成のための様々なサポートを受けることができます。1月には、その1年の研究成果をまとめたレポートを提出します（もちろん修論提出時には、それをレポートに替えることになります）。

■学習院大学ドイツ文学会 研究発表会（修士論文中間発表）

「学習院大学ドイツ文学会 研究発表会」では、修士論文の中間報告など、研究発表の場を提供しています。学会での発表は、研究業績として挙げる事が可能です。

■修士論文提出

修士論文の提出は例年1月10日となっています。字数は4万字以上。当然ドイツ語での執筆も可能です。

博士論文



■研究計画書

博士後期課程に入学した学生は博士論文提出の前々年度の4月下旬に、指導教員の指導を受けて研究目標をまとめた「研究計画書」を提出します。

■博士論文中間報告と予備論文

「研究計画書」が可と判断されると、博士論文提出の前年度に「博士論文中間報告」を行い「予備論文」を提出します。

■博士論文提出

「予備論文」が可と判断されると、博士論文を提出することができます。

■口述試験

提出された博士論文が審査され、口述試験が行われます。この口述試験の合格を経て博士学位が授与されます。

■博士前期・後期課程在籍期間を通じて

研究計画に応じて、一ヶ月程度の短期間から1年以上の長期間まで、海外への留学や研究滞在も可能です。上述の奨学金制度をはじめとする様々なサポートを利用して、国際的な研究活動を行うことができます。



これまでに提出された修士論文・博士論文題目

文学文化

- 第二次世界大戦以前の日独交流と両国相互の異文化体験
- 20世紀初頭のモダンダンスにおける身体
- 啓蒙期における教育思想の流れからみるフリードリヒ・ヴィークの音楽教育法
- 19世紀の音楽新聞及び雑誌からみる音楽と検閲
- 『ファウスト博士』から読み解くトーマス・マンの芸術観の変遷
- グリム兄弟における〈folk〉の理想—市民社会と家族との関連性からの考察
- ファム・ファタルの表象とその受容—ヴェデキントの“ルル”を中心に
- ヘルマン・ヘッセの作品における時代批判
- ジェームス・クリュス作品群におけるファンタジー

言語学

- 言語意識史から見た言語変化—1520年～1870年における前置詞wegenの通時的発展を例にして
- 「ヒトラー」らしさは言語的にどのように演出されるのか？—小説『帰ってきたヒトラー』（2012年）を例にして
- ドイツ語のヴィッツにおける皮肉と嫌み—関連性理論による分析

- 感嘆文に現れる心態詞：コーパスに基づいた分析
- 19世紀オーストリアにおける言語規範と方言
- 「ドイツ性」の象徴としてのドイツ文字—20世紀初頭の全ドイツ文字協会における「民族性」に注目して—
- Malを用いた副詞規定による量化
- Absentivの機能に関する考察
- メタファーに基づくKrieg（戦争）概念の分析

本専攻出身者による博士論文題目

- Hosokawa, Hirofumi: Zeitungssprache und Mündlichkeit. Soziopragmatische Untersuchungen zur Sprache in Zeitungen um 1850, Christian-Albrechts-Universität zu Kiel, 2013
- 木村裕一：世紀転換期における危機の演出—フリッツ・マウトナー、フーゴ・フォン・ホーフマンスタール、フランツ・カフカにおける境界的空間と例外的形象—、学習院大学、2013年
- 牛山さおり：ドイツ語を母語とする幼児の心態詞獲得・習得に関する研究—Rigolコーパスに基づく心態詞dochとjaの分析—、学習院大学、2014年
- 芹澤円：近世ドイツの印刷ビラ、新聞、モード雑誌の言語的特徴—口語性の展開と構文の変化を中心にして、学習院大学、2017年

海外研究者や他の大学院との活発な交流

本専攻ではドイツ語圏を初めとする海外で活躍する研究者を積極的に招聘し、共同研究や講演会を行っています。さらに、これら研究者が大学院生への授業および研究指導を行うこともあります。そうした機会を通して留学時の指導教授を見つける学生も少なくありません。

「学習院大学客員研究者」として来日した研究者（抜粋）

Simone Fässler氏（トゥルガウ教育大学〈スイス〉准教授）
2023年4月
Paul Rössler氏（レーゲンスブルク大学教授）2017年9月
Stephan Elspaß氏（アウクスブルク大学教授）2015年4月
Andreas Gardt氏（カッセル大学教授）2014年3月
Ludwig M. Eichinger氏（ドイツ語研究所所長）2014年1月
Jörg Bücker氏（ミュンスター大学博士）2014年1月

本専攻で講演・ワークショップを行った作家・研究者（抜粋）

作家Milena Michiko Flašar氏による朗読会 2023年10月
作家Nora Gomringer氏による朗読会 2016年11月
作家Kevin Vennemann氏による朗読会 2016年6月
Elizabeth Closs Traugott氏（スタンフォード大学〈アメリカ〉名誉教授）2011年3月
Andreas H. Jucker氏（チューリッヒ大学〈スイス〉教授）
2011年3月

学生募集要領

学習院大学 文学部 ドイツ語圏文化学科

- 一般入学試験 (コア試験)
- 募集人数 30名
試験日 毎年2月上旬～中旬
試験科目 国語、外国語、地歴・公民・数学
- 指定校推薦入学
- 対象 本学が指定した高等学校(指定校は毎年見直し、選定しています)。
時期 毎年7月上旬に、全国の各高等学校長宛に依頼通知を送付します。
内容 各高等学校長から推薦された生徒に対して、書類選考および面接試験を行い、合格者を決定します(指定校推薦に関する受験生からの個別の質問は、受け付けておりません)。
- 公募制推薦入学
- 募集人数 若干名
選考時期 毎年11月中旬
内容 学力試験のみによっては評価しがたい資質・能力を、調査書や志願理由書などによって判断するとともに、小論文や面接によって学科の特質への適応性を判定し、ドイツ語圏文化学科にふさわしい学生を選抜します。ドイツ語の学習歴は必要ありません。全国の高等学校から幅広く人材を募り、1校あたりの推薦人数は制限しません。

学習院大学大学院 人文科学研究科 ドイツ語ドイツ文学専攻

博士前期課程

- 秋期入学試験(募集人員約2名)
試験日 毎年9月中旬
- 春期入学試験(募集人員約3名)
試験日 毎年2月中旬

博士後期課程

- 春期入学試験(募集人員約2名)
試験日 毎年2月中旬

◆年度ごとの試験日、出願期間、出願資格、試験科目などに関する詳細はHPをご覧ください。▶
<http://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/>



◆お問い合わせ先 ○募集要項の請求、ならびに入学試験に関するお問い合わせ



さくまサン
GAKUSHUIN UNIVERSITY
© 19/21 Gakushuin

学習院大学アドミッションセンター(西5号館4階)
TEL. 03-5992-1083 ・ 03-5992-9226
電話受付時間 平日 9:00～17:00 ※土曜・日曜・祝日は受付していません

○ドイツ語圏文化学科・ドイツ語ドイツ文学専攻に関するお問い合わせ
学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科事務室(北2号館3階)
TEL. 03-5992-1098 E-mail: germ-off@gakushuin.ac.jp
<https://de-gakushuin.jp/>



学科HP